

## 新公立病院改革プラン・公的医療機関等 2025 プランの概要

### 公立病院

1. 県立阿南病院
2. 飯田市立病院

### 公的医療機関

3. 下伊那赤十字病院
4. J A長野厚生連 下伊那厚生病院

## 新公立病院改革プラン等の概要

### 【 長野県立阿南病院 】

項目	内容
1 現在の医療機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和23年6月開設、平成22年4月地方独立行政法人長野県立病院機構に移管</li> <li>・病床機能及び病床数 急性期病棟2棟 85床</li> <li>・各種指定 救急告示病院 365日救急患者の受入れ へき地医療拠点病院 へき地巡回診療（隔週で2カ所実施） 医師不足の診療所への医師派遣</li> <li>・主な施設基準 10対1入院基本料、診療録管理体制加算2、医師事務作業補助体制加算1、感染防止対策加算2、後発医薬品使用体制加算1、がん治療連携指導料、胃瘻造設術、脳血管疾患リハビリテーション料Ⅱほか</li> <li>・診療科目 内科、小児科、外科、整形外科、精神科、泌尿器科、婦人科、眼科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、（休診 皮膚科）</li> </ul>
2 医療機関が抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師、医療スタッフの不足、病院への定着</li> <li>・圏域の少子高齢化、人口減少に伴う独居や高齢世帯に対する医療提供</li> <li>・在宅介護力の低下に伴う、在宅医療（訪問看護等）への対応</li> <li>・病診連携、行政、福祉施設との連携による包括ケアシステムの構築</li> <li>・24時間訪問看護、介護の実施</li> <li>・超高齢化に伴う在宅認知症患者の対応</li> </ul>

<p>3 課題を踏まえた将来の医療機能・担うべき役割</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・急性期病棟2棟85床を基調とし、地域に必要な診療科へ常勤医の配置をし、365日救急医療を堅持、地域に寄り添った地域医療を持続的に推進、飯田市内の急性期病院および周辺診療所との連携の強化、周辺施設の後方支援機能を維持する。</li> <li>・地域の中核病院として、地域の医療需要に応じた初期及び二次医療などの診療機能の充実を図るとともに、地域の救急病院として救急患者の受入れを行う。</li> <li>・町村及び地域の医療・保健・福祉との連携のもと、地域包括ケアシステムの後方支援病院として、訪問診療、訪問看護、訪問リハビリ、訪問薬剤指導など積極的に取り組み、在宅医療の充実を図る。</li> <li>・へき地診療所からの要請に基づき医師を派遣するなどの支援を積極的に行う。</li> <li>・地域住民の健康管理に携わり、検診等の実施も積極的に行う。</li> <li>・オレンジプランに基づく認知症初期支援チームへの支援、対応を積極的に行う。</li> <li>・医師、医療スタッフが魅力を感じる環境を整備し、積極的な広報活動を行うとともに他の医療機関等との連携により医療従事者の確保・定着を図る。</li> </ul>
<p>4 将来に向けた取り組みスケジュール</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・診療報酬改定の動向を見据えつつ、課題とニーズを論点整理し担うべき病床機能の形態を探っていく。</li> <li>・当面10対1入院基本料を継続。地域包括ケア病棟への移行など、病床のあり方について検討委員会において検討している。</li> <li>・地域包括ケアシステム構築に向け、後方支援病院として診療圏の町村と連携し構築していく。また、在宅医療の充実については、訪問看護ステーションへの応援体制の検討を行う。</li> </ul>
<p>5 数値目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病床利用率70%を超える入院患者の確保を目標とする。</li> <li>・経常収支比率100%以上とする。(H27から達成)</li> </ul>

【 飯田市立病院 】

項目	内容
1 現在の医療機能	<p>○許可病床数、( )内は稼働病床数 高度急性期 127 床 (125 床)、急性期 296 床 (262 床) 計 423 床 (387 床) 【一般病床 419 床＋感染症病床 4 床】</p> <p>○主な役割、機能等 地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院、救命救急センター、臨床研修指定病院、災害拠点病院、地域周産期母子医療センターなど</p> <p>○診療報酬 (D P C) 救命救急入院料 1・4、小児入院医療管理料 3・4、特定集中治療室管理料 4、新生児特定集中治療室管理料 2 など</p> <p>○診療科 (32 科) 内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、脳神経内科、内分泌内科、糖尿病代謝内科、緩和ケア内科、外科、呼吸器外科、消化器外科、心臓血管外科、脳神経外科、乳腺外科、整形外科、形成外科、リウマチ科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、病理診断科、臨床検査科、救急科、歯科、歯科口腔外科、麻酔科</p>
2 医療機関が抱える課題	<p>○中核病院としての機能向上 当院は、現在、高度急性期及び急性期機能を担っており、当医療圏の中核病院として救急医療、周産期医療、高度医療などを中心に地域医療の確保と医療水準の向上に努め、地域住民に安全・安心で質の高い医療を提供する必要がある。</p> <p>○在宅復帰支援機能の強化 今後高齢化する患者が増加することで、急性期を経過して在宅復帰に向けた医療やリハビリテーションを提供する機能である回復期の機能を有する病床が必要となる。当院でも約 90%の患者が直接自宅等へ退院しており、これらの患者に対して、在宅復帰支援機能を充実させることが必要となっている。</p> <p>○安全安心な分娩体制の維持 分娩については、平成 28 年 8 月以降、地域内の全ての分娩を受入れているが、これは、妊婦健診を地域内の医療機関で分担していただくことで成り立っている。今後も、安心して子どもを産むことができる地域にするためにも地域全体の課題として関係者を含めた検討、高度な連携システムの構築が必要である。</p> <p>○経営の効率化 当院は、地方公営企業として常に企業としての経済性を</p>

2 医療機関が抱える課題（つづき）	<p>発揮するとともに、その本来の目的である公共の福祉を増進するよう運営されなければならない。</p> <p>今後とも、地域医療の確保と医療水準の向上といった当院の役割を果たすためには、健全経営の維持が必要である。</p>
3 課題を踏まえた将来の医療機能・担うべき役割	<p>○中核病院としての機能向上</p> <p>当院は、高度急性期及び急性期機能を担っており、当医療圏の中核病院として救急医療、周産期医療、高度医療などを中心に地域医療の確保と医療水準の向上に努め、地域住民に安全・安心で質の高い医療を提供することを役割としており、今後も、地域がん診療連携拠点病院、救命救急センター、地域周産期母子医療センターなどの機能を向上させていく。</p> <p>○地域包括ケアシステムにおける当院の役割</p> <p>当院の患者も年々高齢者の比率が増加している。また、転院は約10%で約90%の患者は直接自宅等へ退院しており、高齢化した患者の在宅療養支援機能の充実が必要であり、診療所やケアマネージャー、訪問看護ステーション等との連携強化、在宅療養中に症状が悪化した場合に一時的に入院して改善を図るなどの支援機能、緩和ケアや皮膚ケア等の専門スタッフのサポート体制の充実が必要と考える。</p> <p>今後も、当院の専門性を活かして患者が最後まで安心して暮らすことができるようサポート体制の充実を図っていく。</p> <p>○安全安心な分娩体制の維持</p> <p>飯伊医療圏唯一の分娩施設として地域内の医療機関との連携の核として、地域内の分娩体制を維持していく。</p>
4 将来に向けた取り組みスケジュール	<p>○経営の健全化</p> <p>平成29年度 健全経営プロジェクトチームの設置、計画策定</p> <p>※地域包括ケア病棟整備 平成30年度 周産期電子カルテネットワーク構築 平成30年度</p>
5 数値目標	<p>○経営の健全化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経営指標に係る数値目標 <ul style="list-style-type: none"> <li>経常収支比率・・・100% 医業収支比率・・・97% 材料費対医業収益比率・・・22%</li> <li>1日あたり入院患者数・・・325名（退院患者数を含む数340名） 医師数・・・88名</li> </ul> </li> <li>・医療機能等指標に係る数値目標 <ul style="list-style-type: none"> <li>救急車受入搬送件数・・・3,100人</li> <li>紹介率・・・65% 逆紹介率・・・60%</li> </ul> </li> </ul>

【 下伊那赤十字病院 】

項目	内容
1 現在の医療機能	<p>1.診療科目 内科、外科、整形外科、小児科、産婦人科、耳鼻科、眼科、 泌尿器科、皮膚科</p> <p>2.病床種別（機能別） 許可病床：112 床 一般（急性期）＝66 床 10：1 療養（慢性期）＝46 床 介護 40 床・医療 6 床 稼働病床：100 床 一般（急性期）＝60 床 療養（慢性期）＝40 床</p> <p>3.病床利用率 一般＝75％～96％ 年間平均 86％ 療養＝80％～97％ 年間平均 89％</p> <p>4.外来患者数 一日平均＝209 人</p> <p>5.職員数 ・医師＝常勤 9 人 非常勤 1.5 人（常勤換算） ・看護師（助・包含む）＝常勤 50 人 非常勤 7.2 人 ・准看護師＝常勤 5 人 非常勤 0.4 ・医療技術職＝21 人 ・その他職員＝29.4 人</p> <p>6.その他機能 救急告示病院（二次） 地域包括ケア病床 16 床（一般病床内） 人工透析 16 床 訪問看護ステーション 訪問診療、訪問リハビリ、通所リハビリ 認知症初期集中支援チーム</p>
2 医療機関が抱える課題	<p>◎当院の現況 当院は松川町を中心とした下伊那北部及び上伊那南部の 7 町村を診療圏としている。 近隣の将来人口推計（半径 20 キロ圏内）は減少傾向にあるが、高齢化率は増加傾向であり、高齢者人口は、平成 32 年にピークを迎え、その後緩やかに減少していくが、大きな減少ではなく、ピーク時の高齢者人口が当面の間維持されることが見込まれている。 当院は地域に根差した病院として、初期救急から一般診療、在宅支援に至るまでの一貫した医療と介護を提供するとともに、近隣の高度医療機関等とも連携しつつ、回復期や維持期の医療を行う後方支援病院としての役割も担っている。 また、地域の健康づくり拠点として、健診をはじめとした</p>

<p>2 医療機関が抱える課題（つづき）</p>	<p>予防医療の提供や各種予防活動を支援している。          当院は日本赤十字社の病院として、各種講習会をはじめとした赤十字が行う活動拠点であり、赤十字病院としての重要な使命である災害救護の役割も担っている。</p> <p>◎当院の課題</p> <p>公的医療機関としては過度なサービスの提供は慎むべきだが、一方で公的医療機関として当地域で長い将来にわたり継続して医療を提供していくためには安定した運営を続けていかなければならない。</p> <p>1.医師確保          慢性的な医師不足であり、将来的に医師が不在となり診療不能となる診療科の発生が危惧される。</p> <p>2.病院建物の老朽化          既存の建物の一部は築40年を超えており、高齢化に対応した良好な療養環境の確保及び災害時にも対応しうる施設とするためにも建て替えは急務である。</p> <p>3.介護療養病床の転換          6年間の経過措置となった介護療養病床の廃止に関して、今後の転換先及び転換時期の検討が必要。</p>
<p>3 課題を踏まえた将来の医療機能・担うべき役割</p>	<p>◎当院の将来機能・役割          当院の将来機能・役割としては、前述の三つの課題を解決しつつ現在の機能と規模を維持し、現在担っている役割を継続的に果たしていくことと捉えている。</p> <p>◎当院の果たすべき役割</p> <p>1.地域医療          地域包括ケアシステムにおける地域の連携病院として、診療所や医療福祉施設、行政機関等と連携を密にし、訪問診療や訪問看護、通所・訪問リハビリなどを提供していく。</p> <p>2.総合的な医療          地域の病院として、初期救急及び急性期から一般診療、在宅に至るまでの一連の診療を提供するとともに、高度医療機関の後方支援病院としての回復期・慢性期の医療を提供する。</p> <p>3.保健予防          地域住民に対する健診や健康・予防に関する啓発活動、特に高齢者に対しては介護予防や認知症予防を中心に保健予防活動の充実を図る。</p> <p>4.災害救護          赤十字病院の指名と役割を果たすべく、施設整備の際には、災害時にも診療機能を維持でき、被災患者の受け入れも可能な施設を目指す。</p>

4 将来に向けた取 り組みスケジュール	検討中
5 数値目標	検討中



【 長野県厚生農業協同組合連合会 下伊那厚生病院 】

項目	内容
1 現在の医療機能	<p>1.許可病床数：111床（100%稼働）</p> <p>1) 一般病棟 55床 入院基本料 7 対 1、短期滞在入院基本料 3、D P C 41 床、地域包括ケア病床 14 床</p> <p>2) 療養病棟 56 床 ・医療療養 20 床（療養病棟入院基本料 1） ・介護療養 36 床</p> <p>2.診療科 内科、循環器内科、脳神経内科、外科、皮膚科、美容皮膚科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、婦人科、リハビリテーション科など</p>
2 医療機関が抱える課題	<p>1.慢性的な医師不足</p> <p>2.施設の老朽化</p> <p>3.整形外科の再開（地域住民からの要望）</p>
3 課題を踏まえた将来の医療機能・担うべき役割	<p>1.人口推移が緩やかに減少する診療圏で、急性期から慢性期まで医療需要が継続することを踏まえ、現行の病床数 111 床を維持し急性期（一般病床）回復期（地域包括ケア病床）慢性期（医療療養病床）を組み合わせた医療を担っていく</p> <p>2.在宅医療の充実</p> <p>3.診療科は、現行に加えて整形外科の開設を目指す</p> <p>4.介護医療院の検討</p>
4 将来に向けた取り組みスケジュール	<p>検討中</p>
5 数値目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平均在院日数は 16 日以内を目標</li> <li>・病床利用率は現行の 94%以上を目標</li> </ul>